

研究マインドは 人間の本質そのもの

大学の教員にとって最も大切なものは研究マインドだと思います。未知のことに挑戦し新しい価値を創造するための心意気と態度です。研究それ自体は言わずもがな、日々の授業にも研究マインドがものを言います。それこそが、新しい発明・発見や学生諸君が目を輝かすエキサイティングな授業を産み出す原動力になります。長崎大学には、研究マインドにあふれた若い教員たちが数多く存在します。頼もしい限りです。

ある歴史学者は、人間（ホモサピエンス）が地球上にこれほどの繁栄と豊かさをもたらすことができた、その大きな契機は「無知であること」を自覚したことにあると述べています。自然現象、生命現象、社会現象など身の回りの事象を説明する何らの知識も持っていないことを自覚することで初めて、人間は未知への挑戦を開始したというわけです。それがやがて研究という形で洗練され、科学という形で蓄積されました。そして、20世紀以降、累乗化したそ

の蓄積が臨界点を超え爆発的な科学技術の発展をもたらしたのです。研究マインドは人間の本質そのものであると言って良いのかもしれませんが。

そして今、発展した科学技術は、人間の在り方そのものを大きく変えようとしています。



す。AI（人工知能）、IoTやロボット技術の発達は確実に人間の働き方を変えます。遺伝子改変技術や再生医療は我々の生命観に修正を迫ることになるでしょう。日本においては、未曾有の超高齢化社会が出現します。これらの変化は、人間の価値観や世界観に歴史を画する非連続的な変容を迫る可

能性があります。私たちは改めて“幸せ”とは何かを問い直さなければいけません。

そんな変容の時代であるからこそ、研究マインドの重要性を強調したいと思います。多様な研究マインドの集合体である大学が、よりよい社会、持続可能な世界の実現のために果たすべき役割はとても大きいのです。

片峰 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チョーホー]
Choho Vol.59

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	研究マインドは人間の本質そのもの	1	表紙のはなし 今号の「研究最前線」で出島の歴史について執筆された多文化社会学部の木村直樹教授。同学部の学生と共に出島を訪れ、第3期復元工事を経て完成した銅蔵を見学しました。撮影当日は対岸から注目の表門橋が架かり、多くの人にぎわっていました。
特集	この先生に教わりたい! Vol.2	2	
サークルの星!	アルティメットサークル「BOB CATS」/落語研究会/全学サークル連合/っじゃすみん/空手道部	13	
研究最前線	歴史研究の宝庫 長崎	15	
卒業生に聞く	楠本成美さん	17	
地域で活かされる長崎大学の「知」	長崎大学とカネミツがレーザー計測システムを共同開発	19	
Information	長崎大学公開講座 クイズ&編集後記	21	